紅葉の八面山・ブナ林は人気のフィールド

〈ふれあい推進センター〉

一〇月から一一月は各地の小学校から森林環境教育の支援要請が集中しますが、なかでも、四万十川の支流である黒尊川源流域の森林、八面山登山は、例年、人気のイベントです。今年も、高知県四万十市の西土佐小学校・東中筋小学校・八束小学校及び宿毛市の山奈小学校、愛媛県松野町の松野西小学校の五校、合計約百名を対象に実施しました。登山道沿いの樹木やニホンジカの食害などを説明しながら、八面山山頂（一，一六五m）を目指しました。次の、目的地であるブナ林へ移動して、職員が、水源かん養機能等の森林の持つ様々な働きを説明した後、ネイチャーゲーム「カモフラージュ」と「フィールドビンゴ」を実施しました。

森林の働きでは、八面山に降った雨が黒尊川から四万十川に流れ込み、私たちの暮らしとつながっていることなどが理解できた様子でした。また、ネイチャーゲームでは、実際に樹木や森林の土、落ち葉等に触れたり、踏みしめるなどして身体全体で自然を体感して自然の大切さ、良さを十分感じてくれたことだと思います。

西土佐小学校

東中筋小学校

八束小学校

山奈小学校

松野西小学校

黒尊渓谷 親水公園の自然再生

〈ふれあい推進センター〉

当センターでは、自然再生事業の新たな試みとして、四万十森林管理署管内にある高知県四万十市の黒尊渓谷親水公園周辺の自然再生に取り組んでいます。一一月二三日にその一環として四万十川地域住民の組織する「しまんと黒尊むら」一五名の協力により、親水公園に隣接する国有林面積約〇・三haに、カエデやヤマサクラ等広葉樹三〇〇本の植栽と、ニホンジカ防護ネット約三〇〇mの設置を実施しました。

ここは、平成一六年の台風一〇号に伴う集中豪雨により山腹の崩壊したところです。そのため、四万十森林管理署が平成一七年度に谷止工等の治山工事を実施し、クヌギ、ケヤキ、サクラを植栽したものの、ニホンジカの食害により全滅してしまいました。現在はタケニグサやフユイチゴ等ニホンジカの忌避植物のみが生育し渓谷美を損ねている状況にあり、このままでは林地がさらに荒廃する恐れもあるため、地域の方からも強い要望があったところです。

実施後には、地域の方々から感謝の言葉も寄せられ、今後は、植栽木が順調に生育するように、下刈等の保育作業を行い、健全な林へと育成していきます。

ニホンジカ防護ネット設置

植栽の様子

大道マツ試験地の稚樹の本数調整

〈ふれあい推進センター〉

一一月三〇日、高知県四万十町古屋山国有林において、地元住民及び四万十町役場から一一名の参加をいただき、「大道マツ試験地の稚樹の本数調整」を実施しました。

当該林内では常緑広葉樹の繁茂により発生したアカマツ稚樹が成長できない状態にあったことから、当センターが「森林生態系保全・再生事業」として、平成一六年度よりアカマツ保護林内に試験地（面積〇・一二ha）を設け、大道マツの再生に取組んでいます。平成一六年一〇月に稚樹の発生と成長の促進を図るため、繁茂した広葉樹の整理、林床の地かきを実施し、平成一七年度から二三年度においては、稚樹を育成するための下刈を実施しています。

平成二五年で九年を経過した試験地内の稚樹は、現在、順調に生育していますが、稚樹の間隔が狭く枝が当たる等の過密状態となっており、今後の良好な成長のためには、本数を調整する必要があると判断し今回の作業を計画しました。

登山道入口から、一五分程歩道を歩き現地へ到着した、参加者は、大道マツ再生事業の説明や稚樹の本数調整の実施方法の説明を聞

いた後、実際の作業に取りかかりました。

当日は、晴天で風もない絶好の作業日和となり、予定していた時間内に作業を終えることができました。

参加者からは、「この作業でマツが大きくなると思うと嬉しいです」などの感想が聞かれました。

ふれあい推進センターでは、今後もこうした取組を通して、地元と一体となった「大道マツ再生」を進めて行きます。

作業中

都会から、四万十川周辺の自然を体験

〈ふれあい推進センター〉

今年も神奈川県横浜市から神奈川学園中高校の生徒四三名が四万十川周辺のフィールドワークにやってきました。

一一月六日に、高知県四万十市西土佐の中半地区と茅生（かよう）地区を結んで四万十川に架かる「かよう大橋」の市道周辺において、橋の建設由来や道路周辺のシイやカシ類など広葉樹の樹木や植生について学習しました。その後、「NPO法人四万十学舎」に戻ってからは、スギ・ヒノキ・サカキ・シキミ等の葉を実際に触ったり臭いを嗅いだりして、樹木の特徴を体感する学習を行い、また、森林のニホンジカ被害や森林の働き等についても学習しました。

樹木の特徴を学習

今回は短い時間ではありましたが、四万十川周辺の自然について、貴重な体験ができたのではないかと思います。

森林教室「写真立てづくり」を実施

〈徳島森林管理署〉

一二月二六日、徳島県小松島市立目佐児童館で小学生二〇名を対象とした森林教室「写真立てづくり」を行いました。

最初に徳島県の森林の特徴や、森林が地球温暖化防止に役立っていること等について話をしました。つづいて、児童館の先生から写真立ての作り方や道具の使い方などの説明の後、当署が準備した、動物マスコット五種類（クマ、イヌ、パンダ、カブトムシ、クワガタ）及び「森からの贈り物」であるドングリ等を使って子供たちは見本を参考に早速作製に取りかかりました。

開始直後は、見本どおりに作っていましたが、時間を経るとともに、カブトム

何を作ろうかな

シの横にドングリ等を飾り付けたり、シカを作ったり、小屋を作ったりと、子供ならではの旺盛な創作意欲を発揮して、いろいろな作品ができあがりました。今回の森林教室はみんなに満足してもらえたようです。この目佐児童館は、過去にも同様の木工クラフトを行っている団体ですが、「森からの贈り物」であるドングリなどの材料を使った作製は行う機会がなかったとのことで、当署としては、今後もこのような森林教室（木工クラフト）を継続して実施していく予定です。

オリジナルの写真立て完成

森林教室「クリスマスリースづくり」を実施

〈徳島森林管理署〉

一二月二〇日、徳島市立西富田・新町児童館で小学生三五名を対象とした森林教室「クリスマスリースづくり」を行いました。子供たちが作製したのは、カズラやモミの葉、マツボックリを使ったクリスマスリースです。

今回の森林教室は最初にクリスマスでよく使われる「モミの木」について話をしました。子供たちは普段目にしないモミについての知識はまったく無いようでしたが、葉の匂いを嗅がせたり、根っこのイラストを見せながらモミ等の樹木は、根っこで山の土が流れないように押さえ込んでいることを説明すると感心して聞いていました。

リース作製方法の説明

クリスマスリースづくりは土台になるカズラ巻きからのスタートとなりました。子供たちは長いカズラをぐるぐるとリング状にする作業にとても苦戦していましたが、徐々に作業に慣れて、みんなしっかりとカズラのリングを作っていました。続いてモミの葉を自作のリングに差し込んでいく過程になりましたが、カズラの隙間が大きすぎて落ちてしまったり、反対に狭すぎてなかなか入らなかったりと、こちらでも苦戦していました。さらにモミのヤニで手がベタベタになり嫌がる子供もいましたが、モミの葉の匂いの元だよと教えると驚いたり感心しながら匂いを嗅いで、嫌がることなく作業を続けていました。

モミの枝どれにしようかな

最後はクロマツやカラマツのマツボックリ等と、サルトリイバラの実を使って飾り付けを行いました。森林教室の時間が終わると子供たちは自作のクリスマス

リースを「家の玄関や部屋に飾ります」笑顔で話していました。

最近の木工クラフトは間伐材を使用することが多いのですが、今回のクリスマスリースのように、単純に森の恵みを楽しむことにこそ環境に配慮した生活が送れる鍵があるのではないかと思いました。

「子供ゆめ基金体験の風リレーションシップ事業キッズデイ」

〈安芸森林管理署〉

一二月一五日、国立室戸青少年の家が主催する、「子供ゆめ基金体験の風リレーションシップ事業キッズデイ」のイベントに、当署職員四名が木工クラフト講師として参加しました。

この行事は、青少年自然の家の豊かな自然に触れたり、日頃体験できない行動を行ったりすることで、たくましく生きる子供たちの育成を図ることを目的に毎年行われており、当署も今年で三回目の参加となりました。

当日は幼稚園～小学校低学年二六名を対象にクリスマスツリーを作製しました。

まず木工の前に、森林や木材の働きを少しでも知ってもらうため、「森林からの贈り物」と題する紙芝居を魚梁瀬・西川森林事務所の山内さんがクイズを交えながら読み聞かせました。

「森からの贈り物」の紙芝居

子供たちは身の廻りの様々なものに木材が使われている事や、森林の大切さに驚きの声をあげていました。

その後クリスマスツリーの作製に取りかかり、職員で加工した間伐材のツリー材料を組み立て、星や雪だるまに切り抜いた木片に色をつけたり、職員が採取した、サルトリイバラ、ツルウメモドキ、ヒイラギ、マツボックリ、ドングリ等を思い思いに貼りつけました。

沢山ある色とりどりの木の実等を前に、どう飾り付けようかと戸惑っている子もいましたが、職員や大学生ボランティアのサポートを受け、楽しそうに作っていました。

松ぼっくりをたくさん使いボリュームあるツリーを作る子や、赤く塗ったムクロジの実をバランスよく貼りつけ上品に仕上げる子など、自由な発想で、個性的な作品がたくさんできていました。

また子供からは「この木の実の名前は？」「どこでとれたの？」などの質問がたくさんあり、木工を通じて森林に対する興味を持ってもらえたのではないかと思います。

クリスマスツリー完成